

祝 辞

桜の花もすっかり開き、まさに春爛漫という時節、穏やかな春の風が吹いております。この佳き日に、今年も染谷丘高校に新入生をお迎えできました。無事入学される皆様に、心からお慶び申し上げます。

また、保護者の皆様、新しい飛躍の時を迎えるお子様を目にされ、感慨ひとしおのことと拝察いたします。まことにおめでとうございます。

同窓会を代表いたしまして、新たに高校生活をなさろうと胸膨らませている新入生の皆様に、一言ご挨拶申し上げます。

まず触れておかなければならないことは、今年の新型コロナウイルスの影響であると思います。突然、中学校の授業が終了となり、受験という人生においても重大な時期に学校に行くことができなくなったことは、皆様にとっては大きな試練であったかと思えます。

本来なら、中学校の同級生と最後の濃密な時間を過ごすはずの半月余りを、心折れずに一人で勉強に向かうということは大変なことであったのだろうと想像いたしますが、その甲斐もあって、皆様は無事入学を果たせられました。その意味では、皆さんは新型コロナウイルスとの最初の戦いに勝利したと言えるかもしれません。

ふと思いついたことです。ドーデというフランスの作家の作品に、「最後の授業」という小品がございます。ドーデというと音楽好きな人は、「アルルの女」

の原作者ということで記憶されているかもしれません。

この小説の主人公はフランツというフランスのアルザス地方に住む少年です。勉強よりは、鳥の巣を探して歩いたり、河で水遊びをしたりすることが好きで、ごく普通の、どちらかというと楽なことが好きという怠け者の少年です。

今日もツグミの声に誘われる誘惑を何とか振り切って、遅刻して学校にやっけます。すると、いつもとは違って、皆が静まり返っている。フランス語を教えてくれるアメル先生は正装していて、村人も大勢教室に来ている。

いつもと違っていたのは、今日が母国語であるはずのフランス語を学校で教えることのできる最後の日だったからです。アメル先生の「最後の授業」。皆、フランツ少年がやってくるまで待っていたのです。

しかしながら、最初に指名されたフランツ少年は、昨日の宿題のややこしい分詞変化の暗唱が一つもできなかった。アメル先生はこんな具合に諭します。「私たちは、今まで、時間は有り余るほどある、だから面倒な事は今日やらなくても明日やればいいと思っていた。私だって、鱒釣りにいきたいから、授業を休みにしたりした。アルザスの人々皆がそんな生き方をしてきた、それがアルザスの大きな不幸だった。」

フランツ少年は悔しくて、悔しくてたまりません。フランス人だと言い張っていても、フランス語もろくに話せない、なのに、最後の授業になってしまうなんて。今まで、なんて無駄な時間を過ごしてしまったことかと反省する。

アメル先生の「一つの国民が奴隷となっていて、その国民が自分の言語を持っていれば牢獄の鍵を持っていることと同じ」という言葉が胸にささります。そして、最後は老人までも一緒になって初等教科書を必死に読んだ最後の授業をフランツ少年は、ずっと忘れることができないだろうと思うというのが大まかなお話です。

フランツ少年の悔しさは、多くの人々が共感できるものです。フランツ少年は、ある日突然にフランス語の授業が強権により終了するといった非常事態により今までの自分の姿に気づくわけですが、3年間の新たな学習の出发点として皆さんに紹介するのにも適切だと思い話しました。また、国語を大切にするという態度ということも大切にしていただけだと思います。

ところで、同窓会からは、毎年、校章をデザインしたバッジを、新入生の皆様に差し上げております。例年のことですが、少しお話させてください。

このバッジの特徴は、主に2点に限られると感じています。

ひとつは、この形です。校歌に、「丘に向かえる学び舎」とあります。この校歌が創られたころは、学校は、材木町にありましたので、その校舎の向き合う丘とは、染屋台のことです。バッジの形態はその染谷台の河岸段丘を形容したものでございます。

形は、台形を3重に重ねてあります。台形は下が広がっており、どっしりと安定した姿です。それを積み重ねることは、皆様が、これから3年間積み上げていく学びの姿と見ることもできるかと思います。

もう一つは、このバッジの色です。エンジ色と言っています。これも校歌に、「あかき心を染谷の丘に」とございますが、このあかき心の赤と切っても切り離せないものと私は思います。

あかき心について、校歌では明るいという字をあてています。文字通り明るい心、公明正大な心ということでありましょうが、校歌の中では、「深きまこと」と言い換えられています。辞書では、「赤心」赤き心を、まごころともうそいつわりのない心とも説明しています。友人に対して、学問に対して、皆さんの生活の核に据えていただければと期待しています。

バッジに込められた思いを少し述べてみましたが、皆さんがこのバッジを大切に思い、誇りをもって、胸につけて頂ければ、同窓会としてもうれしく思います。

最後になりましたが、校長先生はじめ諸先生方、保護者の皆様、新入生の皆様の成長を、温かく、そして時には厳しく見守っていただきますようお願い申し上げます。同窓会からのご挨拶といたします。

本日は、まことにおめでとうございます。

令和2年4月7日

長野県上田染谷丘高校同窓会長 小林 令子